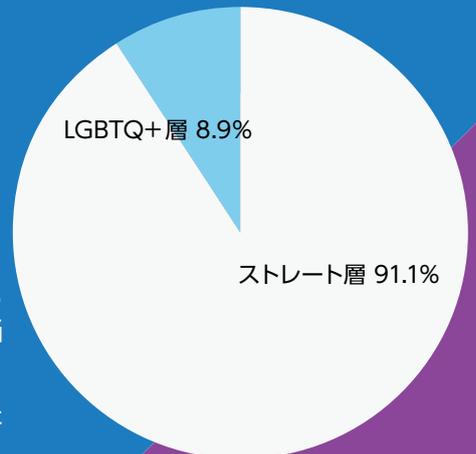


「LGBT」

多様性ってなんだろ〜？



【グラフ】LGBTQ+ 当事者の割合

出典：「LGBTQ+ 調査 2020」（㈱電通）

▶全国 20～59歳の計 6,240人を対象としたアンケート調査で、LGBTQ+層に該当すると回答した人は、8.9%となっている。

※ここでのストレート層とは、異性愛者で、生まれた時に割り当てられた性と性自認が一致する人を指す。

特集

ニジイロ

近年、言葉として浸透しつつある「LGBT」。言葉の認知度と比べて、実際に当事者と接したことがあるという人は少ないでしょう。市では、性別や特性などにかかわらず、誰もが活躍できる地域づくりのため、性の多様性への理解、ジェンダー平等や人権尊重の意識などの推進に取り組んでいます。特集では、基本的な知識や制度、さまざまな視点を通して、多様性とは何かを考えます。

SOLO

+

プラスアルファ

その他の性のあり方(アセクシュアルなど)

Q

クエスチョニング

性自認や性的指向が定まっていない人

T

トランスジェンダー

出生時に割り当てられた性別に違和感を覚える人

B

バイセクシュアル

両性愛者

G

ゲイ

男性同性愛者

L

レズビアン

女性同性愛者

多様な性のあり方

一人一人の性のあり方のことを「セクシュアリティ」と言います。私たちのセクシュアリティは、4つの要素(性的指向・性自認・性的特徴・性表現)の組み合わせで成り立っています。また、多様な性のあり方の表現として「LGBT」があります。これは、レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーという性のあり方の頭文字からできた言葉です。令和4年度の市民意識調査では、市民の7割以上がこの言葉を聞いたことがある、または意味を知っていると回答しています。

ここがポイント!

- 「LGBTQ」は性的少数者全般を指す言葉
- LGBTからLGBTQに表現が変化してきている

SOGI(ソギンジ)

性的指向 (Sexual Orientation) と性自認 (Gender Identity) を、それぞれの英語の頭文字を取り合わせ「SOGI」と表現します。意味は「自分はどんな性別で、どの性別を好きになるか/ならないか」。LGBTQだけでなく、全ての人に関わる言葉として使われています。

誰もが多様な性の当事者であり、LGBTQと同様に自分自身を説明できる言葉があります。例えば「ヘテロセクシュアル」は異性を好きになる人、「シスジェンダー」は出生時に割り当てられた性と性自認が一致している人です。これらは、それぞれホモセクシュアルとトランスジェンダーの対義語として、それは決して当たり前ではないという意味を込めて使われています。

ここがポイント!

- 「SOGI」は全ての人に当てはまる言葉
- 誰もが多様な性の当事者で、自分を説明する言葉がある

▶レインボーフラッグ

虹色は、多様性のシンボル。レインボーフラッグは、レインボーパレードと言われる、セクシュアリティやジェンダーの多様性を祝福するパレードでも使われています。これは、当事者だけでなく、支援者も使用します。



【用語解説】

性的指向/好きになる相手の性別

性自認/自分の性別についての認識

性的特徴/身体の状態

性(ジェンダー) 表現/言葉遣いや服装などで表現される自分「らしさ」のこと

LGBT/レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの総称

課題と求められる対応

最近では、自治体レベルでのパートナーシップ制度導入や国会における議論、同性婚に関する裁判など、LGBTQに関わるいろいろなことが話題として取り上げられるようになり、認知度が高まりました。しかし、これに対する一人一人の関心度が薄いこと、そのギャップが課題となっています。また、さまざまな場面で当事者を想定した対応が、求められています。

はじめの一步として、LGBTQと聞いた時に、文字・記号として捉えるのではなく、誰かの顔が浮かぶと良いなと思います。私も、当事者の知り合いが増えたことで、関連する話題が出た時に、みんなの顔が浮かぶようになりました。社会の一人一人の頭に、見慣れた顔が浮かぶようになれば、関心度も自然と高まると思います。興味を持った人は、ぜひ市の主催する「性の多様性講座」やイベントなどに参加してみてください。



市民協働課
天草美樹 専門職員

無意識の思い込み

アンコンシヤス・バイアス（無意識の思い込み）は、さまざまな場面に隠れています。次のような場面、もやっとしたことありませんか？

【場面の例】

相手の髪型を見て

「髪が長いと女のついでね」

▽男らしい、女らしいといったジェンダーバイアス。

二人組の男女を見て

「付き合ってるの？」

▽異性の二人組は、恋人同士だと考える思い込み。

職場や学校で

「うちの職場（学校）には（当事者は）いないよね」

▽自分たちの周りにはいないだろうという思い込み。

【そんな場面に出会ったら】

無意識の思い込みは、小さな攻撃となって人を傷付けたり、その人らしさを制限したりする原因にもなり得ます。誰もが自分らしく過ごすために、属性ではなく、その人の価値観や能力を尊重することが大切です。

FM島田で放送中！ 「多様性ってなんだろう」



ラジオ収録を行う天草専門職員（右）

▽この番組では、性の多様性やジェンダーに関するさまざまな情報を紹介しています。性的マイノリティーや性別によるさまざまな困難を抱える人への、理解を深めてもらう番組です。

放送日／第1水曜日 午後0時5分から
再放送／第2水曜日 午後0時5分から

【直近の放送内容】

◎ LGBTQからSOGIEへ

◎ LGBTQ当事者が抱える困りごと

◎ SOGIEに関するハラスメント
※過去の放送は、ホームページから聴くことができます。



LGBTQ(+)／性的少数者全般を指す言葉

性的マイノリティー／性的指向や性自認、性表現に関する少数者のこと

SOGIE／性的指向・性自認の英語の頭文字を並べた言葉

ヘテロセクシユアル／異性愛者

ホモセクシユアル／同性愛者

シスジェンダー／出生時に割り当てられた性と性自認が一致している人

トランスジェンダー／出生時に割り当てられた性とは異なる性自認を持つ人

アセクシユアル／他者に対して性的魅力を感じない人

カミングアウト／自分が性的少数者であると認め、自らの意志で他者に伝えること

アウトイング／他者の性のあり方を、その人の同意なしに第三者に伝えてしまうこと

アライ／LGBTQ当事者の支援者・仲間のこと

セクシュアリティ教育は 大人と子どもの両方に必要

■LGBT教育の必要性

現在、保健体育の学習指導要領では、恋愛に関して、異性愛のことが記載されています。しかし、実際にはいろいろなセクシュアリティ（性のあり方）の人がいて、異性愛のみ教えることで、不安を覚える子どもがいます。このため、同じ時期から、セクシュアリティのことを教える必要があります。国内では、LGBTの認知度は高いですが、その他（Q）の認知度が低い状況です。若年層には、Xジェンダー（男性・女性のいずれにも属さない性自認を持つ人）が多くいます。いろいろなセクシュアリティがあることを知ってもらいたいですね。

教員からは、授業内容の相談を受ける機会があります。そこでお伝え

したいのは、ポジティブに教えてほしいということ。確かに、教員は情報として、悩みから自殺につながる事例なども勉強しています。ですが、それはあくまで教える側の知識として必要なこと。子どもたちへの教育は、肯定的に示すことが大事です。「自分らしく生きられるためには、世の中がどうなったら良いか考えよう。楽しく生きてる人だっている」と、ポジティブにセクシュアリティを扱ってほしいです。

■教育現場の現在

現場では、養護教諭を含め多くが研修を受けています。私も、静岡県内で多くの教員研修を担当しました。2015年、学校には文部科学省から性同一性障害や性的マイノリ

愛知大学文学部

まつお ゆきこ
松尾由希子 教授

▷セクシュアリティ教育、日本教育史の研究者。静岡県内における居場所事業や教員研修などでも講師を務める。



ティーに関する児童からの相談などについて「必ず対応が必要」とする通知が出ました。以降、教員の研修や相談体制は強化されてきています。

■大人（保護者）への教育

子どもや教員だけでなく、保護者に対する教育の必要性も感じています。保護者の理解がなければ、学校での対応も限られてくるからです。保護者がカミングアウトを受けて過度に動揺することで、それが子どもに悪化につながることもあります。「自分の子が不幸になるんじゃないか、という気持ちがかかる」と子どもを持つ先生から聞いたことがあります。それは、これまで伝えられてきたネガティブなイメージによるものだと思います。そのイメー

ジを変えていくためにも、子どもと保護者、両方に教育の必要があると思います。例えば、無意識の差別は子どもたちにもあります。オカマやホモ・レズなど、このような言葉の積み重ねで、当事者はダメージを受けます。自分の子だけでなく、その周りや学校にも当事者はいます。子どもたちは、無意識の差別をしているかもしれないと気付いてほしいし、大人は、気付いたら声掛けをしてほしいですね。セクシュアリティは人それぞれで、同じセクシュアリティでもグラデーションがあります。いろいろな人がいることはとても当たり前のことで、だからこそ楽しい。これを勉強したり、当事者と触れ合う機会があったりしたら、不安に思わずに、楽しんでほしいです。

特別じゃない
みんな同じ土地で生きる人

LGBTQ 支援団体「^キュ^ベッ^ク」
^なが^たれ^い
永田 怜さん

▷ 県内の公共施設や学校などで、自身の経験を元にした講演活動を行う。



■ これまで感じた悩みや葛藤

学生時代はLGBTの知識を学ぶ場が無かったので、生まれた時の性別が女性である自分が、女性を好きになることは、自分だけがおかしいんじゃないかと考えていました。心の底から笑えず、親友にも話せない時間がありました。あるきっかけから治療を開始し、身体はだんだんと変化。けれど、周りの視線だったり、多目的トイレを身体的な障害もない自分が使用して良いのかという葛藤もあったりして、公共トイレの使用には、とても悩みました。

■ 活動の原点は人との出会い

きっかけは、看護師として働いていた時にトランスジェンダーの患者さんと出会ったことです。その方には自分が当事者であることを話したのですが、退院時に「自分は治療(性別適合手術)を諦めてしまったけど、あなたはまだ若いから夢と希望を持って胸を張って生きてね」と声を掛けてもらい、勇気付けられました。当時は職場の一部にしか自分のことを公表していなかったのですが、その患者さんが入院した時に、職場内がざわついたことがあり、同じ当事者として苦しかったですね。「人種や性別などに関係なく平等に接する」という看護の基本理念が守られないという看護の基本理念が守られないといけないと思います。ここから、私の活動が始まりましたね。

■ 活動で大切にしている思い

講演活動をする中で「特別視する必要はないんだ」と気付いてくれた参加者がいました。まさにそれが伝えなかったことです。当事者にとっで、カミングアウトしても変わらず接してくれることは、とてもうれしいことです。皆さんに話をする時は、押し付けたり、理解を求めたりするのではなく、一人の人間として見てもらうことを心掛けています。自分たちのありのままの姿を伝えることで、聴いた人にその思いを知ってもらいたいです。



QUEBECのメンバー

■ みんなが生きやすい社会へ

これまでは、こちらから話をする機会がほとんどでした。今後まだまだ話を続けていく必要はあると思いますが、それに加えて、みんなが同じ空間で同じ時間を過ごすことが大切だと考えています。やはり自分が知らないことって、受け入れがたい。でも、当事者と接して、知ろうとする、考えようとするので、その人にとってその後の人生はかなり違うと思います。「同じ土地で同じように生きている人間だよ。特別ではないし、特別扱いしてほしいわけではないよ」ということが一人でも伝われば、活動の意味があります。LGBTQに限らず、皆さんが「ねばならない」ではなく、「したい」を大切にできるように、お手伝いをしていきたいですね。

自分らしい制服の組み合わせ

制服の男女兼用化や組み合わせ自由化をする学校が、全国で増えています。市内でも近年、中学校・高校でさまざまな選択肢が増えており、自分らしい制服の組み合わせを自分で決めることができたり、機能性を求めたりと、制服の自由度は広がっています。

時代の変化とともに、移り変わってきた制服。皆さんの学生時代の制服は、どんな制服だったでしょうか。



島田第二中学校の組み合わせ自由な制服(一例)

【市内高校のスラックス導入時期】

| | | |
|----|--------|------------|
| 高校 | 島田工業高校 | 令和2年度 |
| | 島田高校 | 令和3年度(11月) |
| | 島田商業高校 | 令和5年度 |
| | 島田樟誠高校 | 令和3年度 |



パートナーシップ宣誓制度

世界では、同性間の婚姻を認める国が30カ国を超え、それとほぼ同等の代替制度を含めると60カ国以上にのぼります。日本では、法的効力はないものの同性パートナーの権利や立場を保証し、性の多様性への理解を進める取り組みとして「パートナーシップ宣誓制度」の導入自治体が増えています。

静岡県でも、令和5年3月から導入され、島田市も宣誓可能地域となりました。このように、ジェンダーの平等や性の多様性に対する社会的な理解を広める動きが加速しています。

◎静岡県男女共同参画課

☎054・221・3363

【相談窓口】

ふじのくに電話相談

▼本人だけでなく、家族、友人、職場や学校の関係者も相談できます。秘密厳守、匿名可、相談無料です。専門員が対応するので、安心してお電話ください。

☎0120・279・585

対象／県内在住・在勤・在学の人

とき／毎月第一火曜日・第三

土曜日

午後6時～10時

◎静岡県男女共同参画課

よりそいホットライン

☎0120・279・338

チャット相談

▼お困りの人へ、相談員がチャットで情報を提供します。

内容／同性愛や性別の違和感、カミングアウトなど、性的指向や性自認に関すること



返答時間／水・金・日曜日

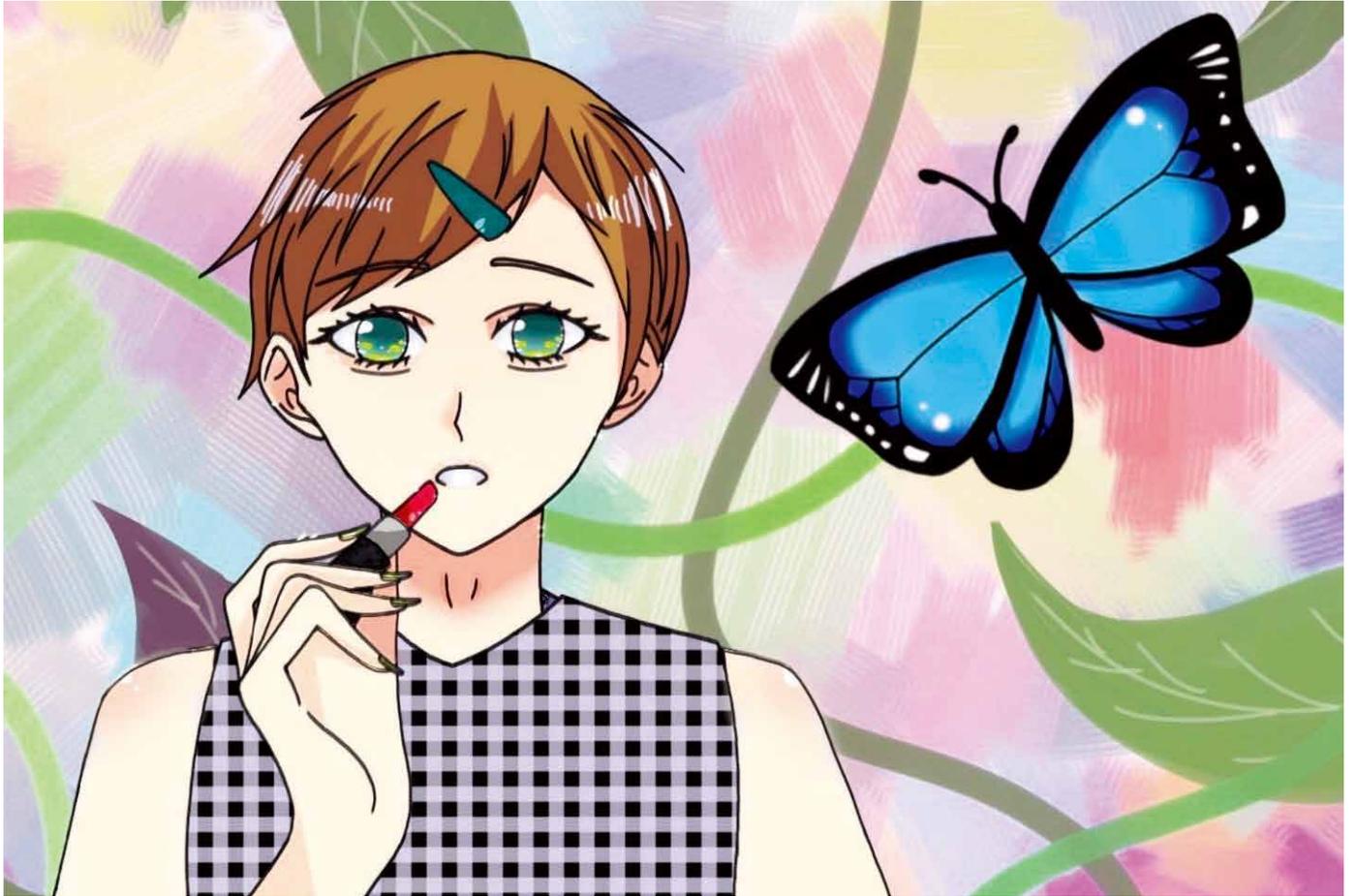
午後4時～10時

◎(一社) 社会的包摂サポートセンター

「多様性を認め合う社会」をテーマに、高校生にイラストを制作してもらいました!

島田高校美術部1年／^{おちあい みき}落合美紀さん、^{にとう みやび}仁藤 雅さん、
^{ひとこと なな}一言奈菜さん、^{たむら まお}田村真桜花さん、^{おおいしり お}大石莉央さん

▷背景には多様性を表す色を取り入れ、メイクを楽しむ男性を描きました。蝶のように自由に羽ばたき、自分らしく生きられる社会をイメージしています。



はじめの一步は“知る”ことから

長い間、異性愛者であることを前提とする教育や社会の慣習が続いてきました。近年ではLGBTの話題が多く取り上げられるようになり、言葉の認知度は高まりました。それを自分ごととして捉えることができる人は、まだ多くありません。関心がある人でも、当事者に出会ったことがない、当事者に対する配慮の仕方や打ち明けられた時の対応が分からない、という人もいるでしょう。性の多様性に関して、広くその言葉や意味を届ける必要があります。それは、理解を広め、誰もが自由に個性を表現できる土壌となります。

加えて、LGBTQだけではなく、他者に対して性的魅力を感じなかつたり、恋愛感情を持たなかつたりする人がいることも、忘れてはいけません。恋愛感情を持たない人以外でも、恋愛や性に関する話題には触れたくない、という人もいます。

インタビューを通して、今回紹介した永田さんのように、自分らしく生き生きと過ごしている当事者がいることも、ぜひ知ってもらいたいと思います。大切なことは、地域に住む一人一人が、互いの個性を認め、尊重し合うこと。これまで知らなかった性の多様性について、「知る」人が増えることが、はじめの一步となるのではないのでしょうか。